

1. 研究背景・目的

千里ニュータウンは昭和37年のまちびらきから50年余りを迎える日本初の大規模ニュータウンである。千里ニュータウンの外周部には緑地を、また児童遊園、街区公園、近隣公園、地区公園、総合公園等がコミュニティーに応じて配置されている。

本研究ではこれら千里ニュータウンの公園の計画、今日までの変遷、現在の公園や遊具の利用実態を調べ、その計画の理念の検証をする。

2. 研究方法・対象

千里ニュータウン内の公園の配置、名称、遊具について現地調査、アンケートを行い、利用実態や思い出を調べる。各住区ごとや豊中市、吹田市で比較する。

3. 現地調査からの分析

(1) 公園の配置

千里ニュータウン(1962年)の児童遊園は5歳以下の幼児のための小さい遊び場で、個人住宅群では街区内部の宅地に隣接して配置される。通過交通はなく、安全な場所に位置している。その後のニュータウンでは配置に変化がある。(図1)

(2) 公園の名称

千里ニュータウンの公園の名称は1969年10月1日、大阪府企業局によって決定された。吹田市側は様々な名前が付いた遊園・広場が多い。植物、動物、鳥、遊具、時代、地形、その他に分けられる。豊中市域は、「〇丁目第〇公園」という名前が多く、カブトムシ公園、ヤンキー広場といった通称名があるところもある。

(3) 公園の利用実態

総合公園、地区公園、近隣公園は大人も子供も多い。グラウンドがある公園では多様な年代の人が集まり使い方も広がりがある。街区公園は親子や小学生が特に多い。幼稚園の帰りに親と一緒に友達同士で寄って遊ぶように街区公園は利用されている。児童遊園はほとんど人が見られない。また、新千里北町の幼稚園児の親子さんは児童遊園を集合場所と捉えていた。

(4) 遊具について

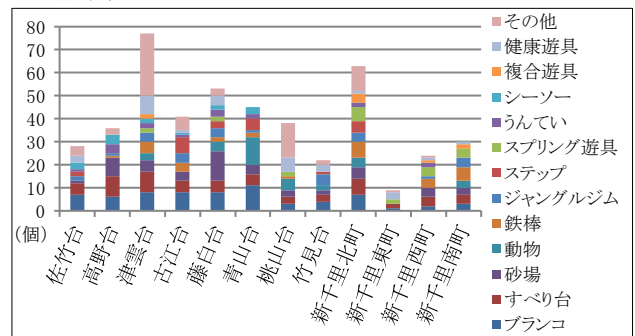


図2 住区ごとの遊具の数と種類

千里ニュータウンの公園の遊具は豊中市や吹田市住区のできた順で多さや少なさが変わる。一番多い遊具はブランコで、すべり台、砂場の順が多い。

(5) 地形を利用した遊具

公園内に段差があるところが26カ所ある。その内6カ所は地形を利用した幅の広い滑り台を設置している。団地の中は5カ所である。千里ニュータウンではマウントスライダーと呼ばれる。職人が作るため一つとして同じものはない。滑るだけでなく登れるよう凹凸がついている所もある。

泉北ニュータウン(1967年)の小さい公園の配置は個人住宅群では街区の内側と外側が混在している。
多摩ニュータウン(1971年)の小さい公園の配置では個人住宅群では街区の内側と外側が混在しているが、小さい公園はほとんど見られない。

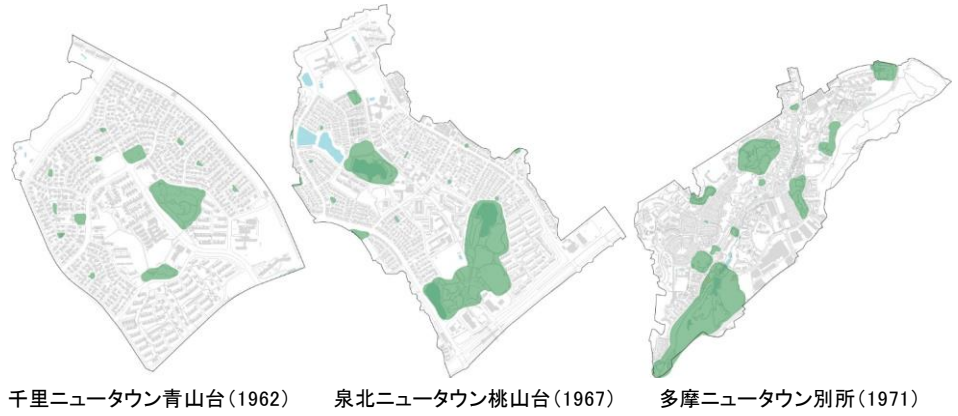


図1 ニュータウンごとの公園の配置変化

表1 地形を利用した遊具一覧

住区	公園	高低差	幅	長さ	勾配	色	方角
佐竹台	府営千里佐竹台住宅 B14.15 間	1m5cm	6m	3m	33.6 度	黄土色	南
津雲台	さるすべり公園	4m37cm	11m	9m50cm	30 度	白	北東
津雲台	つくし広場	1m24cm	1m18cm	3m71cm	25.2 度	赤	東
古江台	府営千里古江台住宅 B-29.33.35.36.37.40.41	2m36cm	4m	10m76cm	23 度	青	南東
藤白台	ふじのき公園	3m45cm	10m	10m34cm	23 度	白	南
青山台	千里青山台団地 C-7 公団住宅	1m20cm	5m30cm	4m63cm	30 度	白	南東
新千里東町	もくせい公園	1m73cm	4m87cm	7m80cm	26 度	薄茶	南東
桃山台	ウサギ遊園	90cm	4m62cm	2m17cm	30.6 度	白	南
桃山台	府営千里桃山台住宅 B-11	3m95cm	4m10.5cm	14m55cm	29 度	白	南東
新千里西町	西町3丁目第1公園	1m18cm	6m11cm	4m70cm	24.5 度	白	南南東
新千里南町	府営新千里南町住宅 B-38.39	3m90cm	7m4cm	15m63cm	25.5 度	薄い橙	北東

① 特別な地形を活かしたすべり台

はと遊園、にしきぎ遊園は既製品を段差に合わせて設置し、青山公園は地形に沿ったすべり台である。



図3 はと遊園(高野台)



図4 青山公園(青山台)

② 撤去されたすべり台

3カ所あり、現状は草や木が生えている。「遊具の安全に関する基準」においてすべり台は安全性が確保されていないため、基本的に撤去されている。

③ 改修されたすべり台

2カ所あり、さるすべり公園のすべり台は撤去をされる予定だったが、地域住民の強い要望により部分修繕となった。ふじのき公園のすべり台は撤去し別の遊具が設置される予定だったが、住民より地域のシンボルになっており同じ形で残してほしいとの強い要望があった。

④ すべり台の思い出

幅の広いすべり台だからこそ子供たちが考えた多様な遊びがうまれた。また、世代を超え男女問わず利用していることが分かった。



図5 もくせい公園(新千里東町)

(6) 車止め

新千里北町には他地域と比べ車止めが多い。幾何学属と動物属がある。公園に隣接する場合は動物属が置かれる。また、北町くるまどめペイント祭が新千里北町で2018年3月21日に実施される。子供たちが「車止め」を通して北町に愛着を持てるイベントとして考えられている。

すべり台の思い出アンケートより

もくせい公園(新千里東町) 中学2年生と小学5年生
遊び:【アリ地獄】
ルール:すべり台下部に鬼、それ以外の子はすべり台上部で座っている
鬼が座っている子供たちの足を引っ張り落とす
全員落ちたら終了
次の鬼を決めるため、すべり台を駆け上る
一番最後の子供が次の鬼

ふじのき公園(藤白台) 小学5年の時
ボールをすべり台に向けて蹴り、高く跳ね返ったボールを誰がキャッチするかという遊び
駆け登ったり、頭を下方向に向けて滑ったりした
鬼ごっこのような遊びでは、すべり台を上るのが、逃げられるか追いつかれるかという賭けだった

佐竹台のすべり台 子供が幼稚園から小学校低学年の時
男の子たちがすべり台の斜面を使って、仮面ライダーごっこ

高野台のすべり台 子供の時
そのすべり台に連れて行ってもらうの、ほんまに楽しみやっせん!

さるすべり公園(津雲台) 30年前、小学4年生の時
時々付近に落ちているダンボールをお尻にひいて滑ってました

4. 結論

1. 千里ニュータウンの児童遊園の配置は個人住宅群では街区の内部に宅地に隣接して配置される。他のニュータウンでは年代が進むにつれて内から外へと移動する。また、小さい公園が減っている。
2. 吹田市側の公園の名称は様々である。豊中市側の公園の名称は形式的である。
3. 大きい公園では時間帯で利用する人を変え大人も子供も多い。また、安全面や年齢層など考慮され配置されるなど計画の理念があったが、児童遊園はほとんど利用されていない。これらの理念には限界があったのではないかと考えられる。
4. 遊具は豊中市や吹田市、住区によって数が変わる。
5. 地形を活かしたすべり台があり、多様な遊び方や使いこなしが世代を超えてある。

「参考文献」

- ・大阪府「千里ニュータウンの建設」大阪府(1970)
- ・小野良平「歴史文化ライブラリー157公園の誕生」吉川弘文館(2003)
- ・武部俊寛『新千里北町の「車止め」に関する研究—千里ニュータウンのミクロなデザインから生まれた地域資源—』
- ・福田忍「おかやま街歩きノット第20号」(2016)
- ・ディスカバー千里<http://senrinewtown.xsrv.jp>